

■3D教育プログラムの導入背景

キャリア教育が全面に出てきている今日、今までの進路指導を充実させる中で、なかなか学級活動の中だけでは足りない部分があります。その足りない部分をどうするか、ということが課題としてありました。その時に知り合いを通じてK A教育の3D教育プログラムのことを知りました。

学校教育の目的はさまざまありますが、大事なことはまず「自分を知らずして」です。それがスタートだと思えます。このプログラムがその自分を知らずに繋がるようになっていくという導入に至って活用するようになったんです。そして、このプログラムを通して子どもたちが自分を知るために何



をしたらよいか、そこに持っていきかけたんです。

■“自分を知る”ためのエゴグラム

先ほども言いましたとおり、全ての前提は「自分を知ること」です。エゴグラム診断はこのことについて効果があるものだと思います。エゴグラム診断は単純なイエスノーの答えではありませんが、意識しないでボンボンと無意識で回答していくので、「自分はこういう人間なんだ」という形で、自分のことが意外とよくわかる場所が特徴だと思います。結果もすぐ出てきますしね。割とゲーム感覚でできるので生徒も教師も取り組みやすいのではないのでしょうか。

3D教育プログラムを関連付けて活用する学級経営



インタビュー
校長 関本恵一 先生

考えています。

■貴校における3D教育プログラムの位置づけ

3D教育プログラムは、生徒一人ひとりに「生きる力」を教えるための一つのきっかけだと思います。教師が生徒に生きる上で大事なことを関連付けて教えていくきっかけになるプログラムだと思います。そしてそのことをきっかけにして生徒に習慣化させていくことが重要だと思います。そのためには教員の意識が大切に

えていかないといけないということです。そういう意味で、子どもたちの心に届くようにするためにも、道徳の授業で学んだことがどういった局面で結びついていくのかを教えていく関連性のある授業をしなければいけないと思います。

我が校の生徒はもともと台東区で推進している「挨拶運動」もあって、生徒が皆挨拶をしっかりとできる状態にあります。その面では特に挨拶の指導をする必要はありませんでしたが、こうした状態を基盤にして課外授業などの外に出た時にどう関連付けられるかが今後大事になってくる



■グループ学習について

エゴグラム診断の後のグループ学習のプログラムも難しいものではないので、教員も取り組みやすいと思います。コミュニケーション能力が乏しいと言われている昨今、これは生徒だけでなく、教員自身もある意味で道徳や学級活動の分野を大学では教わってきていないという状況なんです。そういう意味では、教える側にとっても道徳や学級活動の一つの目安として、このグループ学習のプログラムはその存在意義、必要性は高いと思います。その上で、話し合いの場をもっていく中で、コミュニケーション能力が自然とついてくればなおいいと思っています。

なります。教員がそういうふうに意識するかどうかでプログラムを効果的に活用できるかどうか変わってくると思います。

■保護者へのフィードバック

本校では終業式の時点で通知表を渡すことはしていません。3年生では夏休みの三者面談の場で成績表を渡すようにしています。その際、エゴグラムの診断結果を保護者の方へフィードバックし、ここでも成績と生徒の状態を関連付けて保護者の方へ話しています。

基本となる学級経営の中での一つの結果の現れとして、エゴグラム診断の結果を保護者の方へ提供し、今後の生徒、学校、家庭の三者間の協力を促進できていると思います。

■最後に一言

プログラムも学級単位で行っていくわけですが、いかに学級が大切かということですね。さまざまなことも最終的には学級経営に戻ります。その中でやったことを関連付けた話ができるかどうか。ここが大事です。道徳や学級活動は学級経営がしっかりできていないとできません。

私は「校長室だより」として不定期で朝礼や式典で話す内容を記載した刊行物を出しています。また、校長室もガラスの扉に変えてもらい、

■導入校としては国内唯一の公立中学校ですが

我が校でも使っていますが、他の中学校では文部科学省から配給される教材を使用しています。道徳の時間には「心のノート」というものが届き、それも使っています。私立の学校では独自にカリキュラムを組めますが公立はそうはいかないところが大変なところではあります。その中でも少しでも独自の取り組みをするようしています。

こうした取り組みに対して、教員によって温度差もあります。特に他の教科と違い、道徳の時間は取り組みに差が出やすい面があります。決まったことを教えるのと違い、生徒一人ひとりの心に訴えていく内容ですから、その面では非常に難しい面があると思います。

■導入してみた効果、変化は？

特に今の2、3年生についてですが、道徳の授業でやってきた分、子どもたちの公共性や善悪の判断はすごく育ってきていると思います。一つ例をあげると、「マナー」の授業の際、ほとんどの生徒が正しい判断ができていたのが印象的でした。

ここで重要なのは、道徳の授業でやるだけではなく、やったことがどこでどう結びついているのかまで教

★『3D教育プログラム』でココが変わった！

- ・ コミュニケーションの良ききっかけになっている
- ・ エゴグラム診断で“自分を知る”ことにつながる
- ・ 公共性や善悪の判断の部分が育ってきた